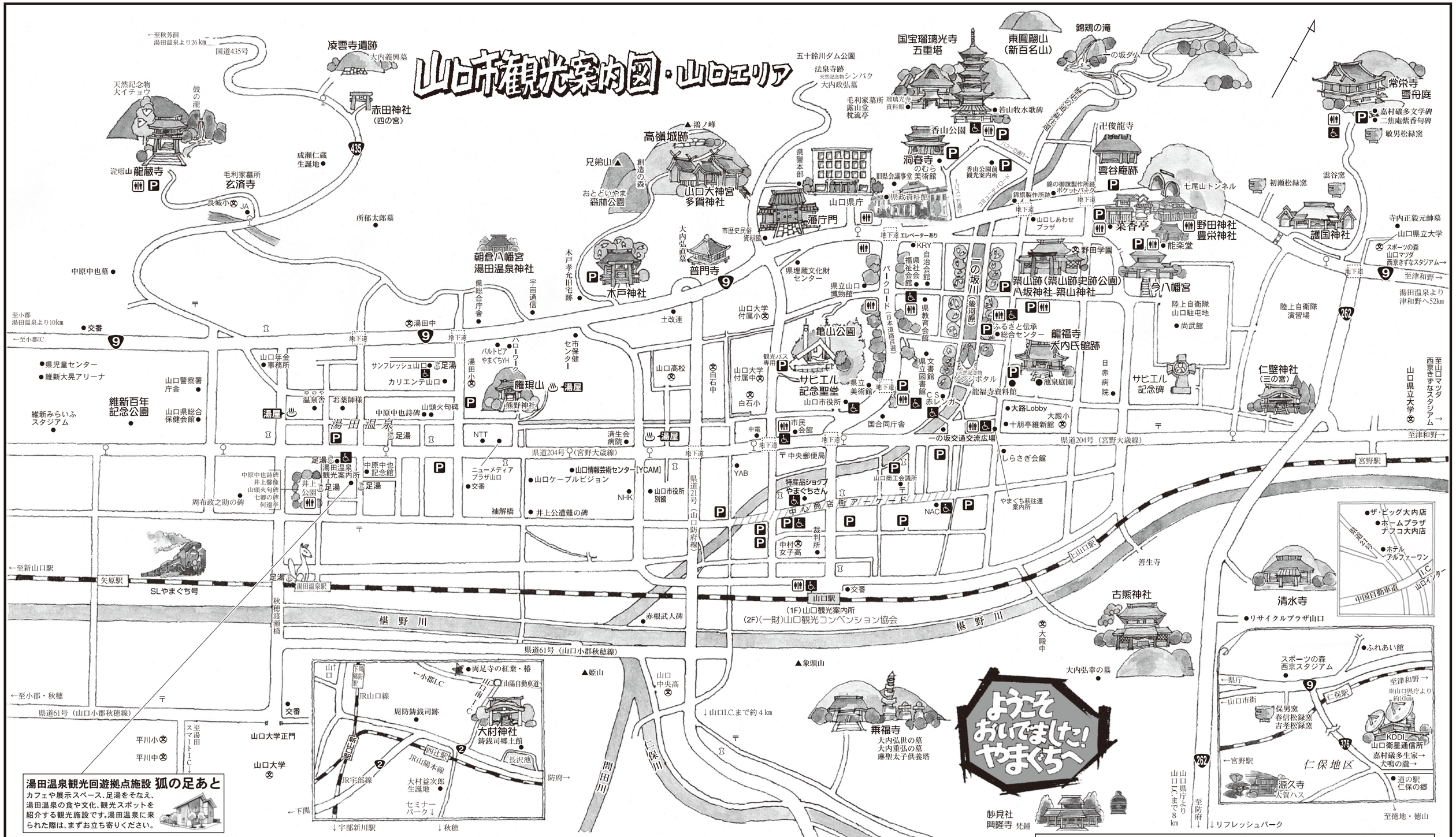
山口市観光案内図・山口エリア



湯田温泉観光回遊拠点施設 狐の足あと

カフェや展示スペース、足湯をそなえ、湯田温泉の食や文化、観光スポットを紹介する観光施設です。湯田温泉に来られた際は、まずお立ち寄りください。

施設名	電話番号	休館日	入場料
山口サビエル記念聖堂	083-920-1549	無休　ミサを除く	要
十朋亭維新館	083-902-1688	火(祝日の場合は翌日)	要
常栄寺雪舟庭	083-922-2272	無休	要
山口ふるさと伝承総合センター	083-928-3333	12/29～1/5、8/14～8/16	不要
瑠璃光寺資料館	083-924-9139	無休	要
山口市歴史民俗資料館	083-924-7001	月(祝日の場合は翌日)年末年始	要
山口県埋蔵文化財センター	083-923-1060	土、日曜日、祝日、年末年始	不要
龍福寺資料館	083-922-1009	無休	要

施設名	電話番号	休館日	入場料
山口県立山口博物館	083-922-0294	月(祝日の場合は翌日)年末年始、全館清掃日他	要
山口県立美術館	083-925-7788	月(祝日の場合は翌日)年末年始、臨時休館日	要
龍蔵寺	083-924-1357	無休	要
KDDI山口衛星通信センター	083-929-1400	月(祝日の場合は翌日)年末年始	不要
鋳銭司郷土館	083-986-2368	月(祝日の場合は翌日)祝日の翌日、年末年始	要
山口市菜香亭	083-934-3312	火(祝日の場合は祝祭日でない次の平日)年末年始	要
中原中也記念館	083-932-6430	月(祝日の場合は翌日)毎月最終火曜日、年末年始	要
やまぐち萩往還語り部の会	083-920-3323	土・日・祝・年末年始・平日午前中	不要

湯田温泉旅館協同組合加盟旅館 宿泊者対象

【湯田温泉乗合観光タクシー】

[2時間コース／1人 3,000円]　出発時間／9時、10時、14時、15時

湯田温泉→サビエル記念聖堂→パークロード→藩庁門→洞春寺観音堂→香山公園→国宝瑠璃光寺五重塔→一の坂川→菜香亭→常栄寺雪舟庭→サビエル記念碑→JR山口駅→湯田温泉

[1時間コース／1人 2,000円]　出発時間／9時、10時、15時、16時、20時

湯田温泉→サビエル記念聖堂→国宝瑠璃光寺五重塔→一の坂川→JR山口駅→湯田温泉

お問い合わせ／

湯田温泉観光案内所　083・901・0150
湯田温泉旅館協同組合加盟旅館
湯田温泉旅館協同組合 083・920・3000

※有料施設への入場料は含まれておりません。
※ご希望や時間の都合により、全て回れない場合がありますのでご了承ください。

やまぐち観光案内

(一財)山口観光コンベンション協会
TEL（083）933-0088

▲サビエル記念聖堂

街の中央に亀に似た小高い丘があり、亀山という。頂上は公園になっており市街の展望が美しい。丘の中腹にサビエル記念聖堂がある。聖堂は、日本へ最初に渡ったキリスト教布教師フランシスコ・サビエルの偉業を記念して建てられた教会。[布教の寺跡（市内・金古曽）にも記念碑が建てられている。] 亀山公園の一角には、小・中学校時代を山口で過ごした国木田独歩の「山林に自由存す」の碑も見える。

高嶺城跡（史跡）

大内氏の重鎮で武断派の陶氏は、大内義隆を謀反の末に滅亡させ、九州の大友宗麟の弟を迎えて、大内義長として継承させた。陶軍が毛利軍に敗れた後、義長が毛利軍と戦うため高の嶺に城を築いて戦ったが敗れて、城を棄て長府に逃れたが自刃。

▲藩庁門

文久３年、攘夷の声の中、藩庁は萩より山口へ移された。幕府との対決の時を迎え、多くの志士たちはこの門より風雲急を告げる京へと旅立って行った。

▲亀山公園

明治維新時の毛利敬親公の銅像

▼西のお伊勢様 山口大神宮

大内義興によって創建され、江戸時代には「西のお伊勢さま」と呼ばれて、九州・西国各地から多くの参拝者が訪れた。内宮は平成７年秋焼失。平成12年再建。

▼毛利元就菩提寺 洞春寺

洞春寺は大内氏に代ってこの地を治めた毛利元就の菩提寺である。本堂は江戸時代に焼失したものの、山門は室町時代の特色をよく表わしている。また境内には禅宗様建築として有名な観音堂もある。いずれも国の重要文化財に指定されている。

▲瑠璃光寺五重塔（国宝）

瑠璃光寺五重塔は、足利幕府と戦い泉州堺に倒れた大内義弘の菩提を弔うために1442年に建てられた塔である。室町時代の建築としては装飾が少なく、その優美なシルエットは、全国でいちばん美しいと評価されている。西の京・山口のシンボルとして大内文化を優雅に今に伝えている。塔の傍には古塔を詩った若山牧水の歌碑がある。

▼香山公園

緑に覆われた古城岳の麓に、瑠璃光寺に隣接して、室町時代から明治維新にかけての歴史を語る香山公園がある。公園内にある「露山堂」は、幕末の藩主・毛利敬親公が家臣の身分を問わずここに招き、討幕の策を練った茶室であり、傍の枕流亭は薩長連合の密議を行った建物で、幕末歴史に登場する志士達の多くが訪れている。公園の一角には毛利敬親公の偉業を称えた勅撰銅碑や、幕末以後の歴代藩主の墓がありその参道の石畳は歩くと足音が石段に反響して妙音を発する「鶯張り石畳」としてよく知られている。

国・史跡名勝
▲常栄寺雪舟庭

雪舟は画僧として知られているが、築庭にも秀でていたといわれ、各地に雪舟の手によったという名庭がある。中でもこの常栄寺の庭は有名である。文明年間（1469～86）中国から帰朝した雪舟は大内政弘の母の別邸を築庭した。背景は山林、北は枯滝、中央が無染池。周囲には立石を配し、破墨山水を立体化。もともと禅僧である彼らしい簡素で豪放な造りである。

この別邸は名を妙喜寺、妙寿寺と変り、明治に入り毛利隆元の法名から常栄寺となった。

▶雪舟旧居 雲谷庵跡

大内氏に招かれ山口に来た雪舟は此所に居を構え「雲谷庵」とし、多くの作品を画いた。永正３年この庵で没したと伝えられる。没後は、雲谷派として弟子がこの庵を継承した。

▲野田神社・豊栄神社

野田神社は幕末時の藩主父子の毛利敬親・元徳の両公を祭神とし、豊栄神社は毛利元就公を祭神としている。社は明治２年萩よりこの地に移され、朝廷より豊栄の神号を賜った。

▼今八幡宮（国・重文）

創建は定かではないが、大内氏が山口に移る以前からの古い社という。現在の社殿は室町後期に建立されたものである。本殿・拝殿・楼門は結合しているが、このような様式は山口地方特有なもので珍しい。宝物に大内義隆が寄進した銅製の鰐口がある。重要文化財として訪れる人は数多い。

▲大内氏館跡龍福寺（史跡）

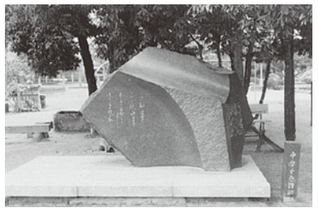
ここは大内弘世が山口に移って以来居館とした所である。歴代大内氏はここで政務を執ったが、勢力が中国一円より九州に及ぶに至り山口は西日本の政治の中心となり「西の京」が生まれた。大内義隆滅亡後、毛利隆元は大内館跡に義隆の菩提を弔うためにこの龍福寺を建立した。

▼古熊神社（国・重文）

今から六百数十余年前、大内弘世が京都の北野天神を勧請。祭神は菅原道真。祭礼は山口天神としてよく知られている。本殿、拝殿は共に室町時代の建造物として重要文化財。梅・桜の名所として静遊の人も多い。

▲築山館跡
・八坂神社（国･重文）・築山神社

西国の雄・大内氏は1490年頃は益々富を蓄え、大内館の北隣に居館を建てた。そこには立派な築山があったので「築山館」という。有名な連歌師の宗祇法師もその壮大さを「池は海こずえは夏の深山かな」と詠んでいる。八坂神社は弘世が京都から勧請した神社で「山口の祇園さま」と呼ばれ、「鷺の舞」が奉納される。その祭礼は市をあげて賑わう。



▲湯田温泉・井上公園

湯田温泉の一角にあるこの公園に、明治維新史を語る七卿の碑や何遠亭の跡、井上馨の銅像など、また放浪の俳人種田山頭火の句碑、中原中也の詩碑もある。温泉は山陽路随一の湯量を誇り、古来より白狐の伝説に彩られ約800年余の歴史をもつ。

▲中原中也記念館

中也は近代を代表する抒情詩人。彼にまつわる貴重な関係資料を集め、「中也の世界」により深く触れて頂くために、湯田温泉の中也の生誕地跡に建っている。

山口小史

西の京と謳われた大内氏時代の山口

山口は、中世に文化の粋を集め「西の京」と謳われた街。南北朝時代中頃の一三六〇年、中国地方の豪族で守護職の大内氏の24代・弘世が居館を山口に移し、京都に模した街造りをして大いに栄えた。大内氏の歴代当主は文武兼備の勇将名将が続き、約二百年間大陸文化渡来の門戸として、貿易で莫大な富と権力を貯えて、中世戦国時代の雄として君臨。特に30代大内義興の頃は、将軍足利義稙を補佐し十一年間幕政を左右する西国一の大大名であった。応仁の乱で疲弊した京を逃れて、多くの公卿文人たちが来山し、大内文化はますます栄え、その遺薫は街中の随所に今なお漂う。

31代義隆の頃には七州の守護大名として栄華はその極に達するが、一五五一年武断派の重臣・陶晴賢の謀反に依り、義隆は長門の大寧寺に敗走自刃。大内氏の正統は断絶する。以後山口の街は、幕末に討幕活動の拠点として毛利敬親公が藩庁を山口に移すまで、静かに息をひそめる。

幕末、討幕運動の拠点としての山口

大内氏滅亡後、広島の毛利元就は下剋上の将・陶晴賢を討ち、大内氏に執って代る大大名となるが、元就の嫡孫・毛利輝元の時、関ヶ原の戦いで反徳川の旗を掲げた為、家康によって旧領八カ国、百二十一万石を没収され、周防・長門の防長二州三十六万石となり萩へ封じ込められた。以来討幕維新までの約二百七十年間、長い試練の藩政時代のトンネルに入っていく。

嘉永六年（一八五三）ペリー来航により泰平の夢が破られ、新しい時代の創建に向け日本中が激動する。長州藩に於ては、吉田松陰をはじめその門下生たちが維新の志士たちとして活躍。文久三年（一八六三）藩主・毛利敬親は幕命を無視して山口に藩庁を移す。山口は俄然一新し防長政治の中心地、否、新日本建設の策源地として明治維新（一八六八）を達成させる、華やかにして激動の時代の脚光を浴びることになる。

今なお歴史を色濃く残す美しい街である。